

条件設定

1. 概要	3
1-1. 条件設定で実現可能な帳票	3
2. 条件式・実行式を設定する	4
2-1. Job ファイルの準備	4
2-2. 条件設定ダイアログ	5
2-3. ケースを作成	6
2-4. 条件式を設定	6
2-4-1. 条件の対象を設定	7
2-4-2. 値を設定	7
2-4-3. 関係演算子を設定	8
2-5. 実行式を設定	9
2-5-1. 実行項目を設定	9
2-5-2. 対象オブジェクトを設定	10
2-5-3. 複数の実行式を設定	11
2-6. 複数の条件セットを作成	14
2-7. Datamap ファイルの確認	17
2-8. プレビュー確認	18
3. 条件設定の構成	20
3-1. ケース	20
3-2. 条件式	21
3-2-1. 条件の対象	21
3-2-2. 値	23
3-2-3. 関係演算子	24
3-2-4. 論理演算子	24
3-3. 実行式	25
3-3-1. オブジェクトの属性変更	25
3-3-2. データ編集	25
3-3-3. 対象オブジェクト	26
3-4. 複数の条件式・実行式	28
3-4-1. 複数の条件式	28
3-4-2. 複数の実行式	28
4. 条件設定の詳細	29
4-1. 条件設定ダイアログ	29
4-1-1. 新規の条件セットを設定	30
4-1-2. 実行式を追加	30
4-1-3. 条件式を変更	30
4-1-4. 実行式を変更	30
4-1-5. 条件式または実行式を削除	30
4-1-6. 条件式または実行式を複写	31
4-1-7. 条件セットの順序を入れ替え	31
4-2. 条件設定の追加ダイアログ	31

4-3. 条件式の設定	32
4-3-1. 条件の対象を設定	33
4-3-2. 値を設定	34
4-3-3. 関係演算子を設定	34
4-3-4. 論理演算子を変更	34
4-3-5. 条件を追加	35
4-3-6. 条件を削除	35
4-3-7. 条件の順序を入れ替え	35
4-4. 実行式の設定	35
4-4-1. オブジェクト属性変更内容またはデータ編集内容を設定	36
4-4-2. 対象オブジェクトを設定	36
4-4-3. 対象オブジェクトを削除	38
4-4-4. オブジェクトを検索	39
4-5. 表示 / 非表示	39
4-6. 文字列変更	39
4-7. 太字化	40
4-8. 色変更	40
4-8-1. フォント色を設定	40
4-8-2. 線色を設定	40
4-8-3. 塗りつぶし（背景色）を設定	41
4-8-4. フォント色と塗りつぶし（背景色）を設定	41
4-9. 位置・サイズ変更	41
4-9-1. 位置を変更	42
4-9-2. サイズを変更	42
4-10. データ編集	42
4-11. 条件設定の一括変更	43
5. 重ね合わせ	44
6. 複数行マッピングとリスト形式出力	45
7. 制限事項	46
8. 条件使用例	48
帳票例 1	48
文字列を空にしたい	48
帳票例 2	48
複数ページの帳票で、最後のページ以外に「次ページへ続く」と出力したい	48
帳票例 3	48
得点が 10 点以上 20 点以下のとき、フォント色を赤色に変更したい	48
帳票例 4	49
該当する年号を○で囲みたい	49
帳票例 5	49
条件によって列数を増やしたい	49
帳票例 6	49
データが 0 なら非表示、それ以外は、カンマ編集にしたい	49
帳票例 7	50
数値を判定して文字列を変更したい	50

1. 概要

オブジェクトの値を条件にして帳票上のオブジェクトの位置や色などのオブジェクト属性を変更、またはデータ編集を設定することができます。
この機能を条件設定機能といいます。

<< 注意 >>

基本的にはプロパティで設定した値（属性値）がオブジェクトに適用されます。
そのうえで、条件設定で真となった場合のみ属性値が上書きされます。

1-1. 条件設定で実現可能な帳票

オブジェクトを条件に設定することで、データによってオブジェクト属性やデータ編集設定を変更できるため、例えば次のような特徴を持った帳票を作成したい場合には条件設定機能が適しています。

- ・ 最終ページのみオブジェクトを非表示にしたい
→ 「8. 条件使用例」の帳票例 2
- ・ 条件によって列や枠を表示したい
→ 「8. 条件使用例」の帳票例 5
- ・ 該当する文字のみを○で囲みたい
→ 「8. 条件使用例」の帳票例 4
- ・ 条件に適合した場合にのみ色を変えたい
→ 「8. 条件使用例」の帳票例 3
- ・ 条件によって固定文を差し替えたい
→ 「8. 条件使用例」の帳票例 7
- ・ 条件によってオブジェクトの位置を変更したい
→ 「8. 条件使用例」の帳票例 4 と同じ方法で再現可能

2. 条件式・実行式を設定する

ここでは以下の条件セットを例に条件設定の設定方法を説明します。

- ・得点が平均点より大きい場合は、教科のフォントを太字にする
- ・得点が平均点より大きい場合は、得点のフォント色を青色にする
- ・得点が平均点より小さい場合は、得点のフォント色を赤色にする

完成イメージは以下の通りです。

図：完成イメージ

成績表

教科	得点	平均点
国語	70	67.9
数学	62	69.1
社会	64	48.8
理科	90	73.6
英語	72	72.0
音楽	60	76.4
家庭科	90	52.0
美術	62	78.0

完成版の資源ファイルは“帳票資源フォルダー¥tut¥Condition_Setting¥fin”という作業ディレクトリに保存されています。

2-1. Job ファイルの準備

◆◆ 操作 ◆◆

マネージャーを起動し、ディレクトリツリーより“帳票資源フォルダー ¥tut¥Condition_Setting¥01”をクリックします。

プレビューエリアより、“Condition_setting.sty”を選択し、マネージャーのツールボタン[フォーム編集]をクリックします（プレビューをダブルクリックしても同様です。）

図：Condition_setting.fmd

成績表

教科	得点	平均点
教科	得点	平均点

テキスト変数 “教科” “得点” “平均点” がリスト形式データ出力として設定されています。

この帳票では、“得点” の値が “平均点” より大きい場合、“教科” を太字化し “得点” を青色に、“得点” の値が “平均点” より小さい場合、“得点” を赤色に変更する条件設定を行います。

2-2. 条件設定ダイアログ

◆◆ 操作 ◆◆

Form エディターのツールバーの条件設定のアイコンをクリックします。

図：ツールバーの条件設定アイコン



条件設定ダイアログが表示されます。

図：条件設定ダイアログ

条件設定

No.	ケース名	ケースを選択してください。			
		優先順位	条件式	対象オラシオ外	実行式

追加 削除 ↑ ↓ 条件設定の追加 ... 実行式の追加 ... 削除 ↑ ↓ 開じる

2-3. ケースを作成

◆◆ 操作 ◆◆

左ケースリスト下の「追加」ボタンをクリックします。

ケース名には「平均点の色指定」と入力し、「OK」ボタンをクリックします。

図：ケース作成

ケースが作成されました。

2-4. 条件式を設定

「得点が平均点より大きい場合は、教科のフォントを太字にする」

「得点が平均点より大きい場合は、得点のフォント色を青色にする」の

「得点が平均点より大きい場合は」の部分を設定します。

条件設定ダイアログのケース名が「平均点の色指定」と表示されていることを確認します。

◆◆ 操作 ◆◆

「条件設定の追加」ボタンをクリックで条件設定の追加ダイアログを表示し

「条件式」ボタンをクリックします。

図：条件式ダイアログ

	条件の対象	値
☒	もし	-
		文字列: 等しい

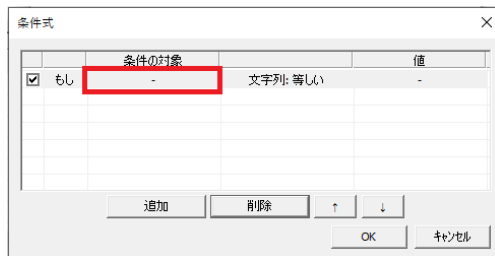
条件式ダイアログが表示されます。

2-4-1. 条件の対象を設定

◆◆ 操作 ◆◆

条件の対象列をクリックします。

図：条件の対象列



条件の対象の設定ダイアログが表示されます。

◆◆ 操作 ◆◆

[項目の種類] に “テキスト変数 (他変数)”、[テキスト変数名] に “得点” を設定します。

図：条件の対象の設定ダイアログ



◆◆ 操作 ◆◆

[OK] ボタンをクリックします。

条件の対象が設定されました。

2-4-2. 値を設定

◆◆ 操作 ◆◆

値列をクリックします。

値の設定ダイアログが表示されます。

◆◆ 操作 ◆◆

[項目の種類] に “テキスト変数 (他変数)”、[テキスト変数名] に “平均点” を設定します。

図：値の設定ダイアログ

値の設定

項目の種類: テキスト変数(他変数)

テキスト変数名: 平均点

固定値:

OK キャンセル

◆◆ 操作 ◆◆

[OK] ボタンをクリックします。

値が設定されました。

2-4-3. 関係演算子を設定

◆◆ 操作 ◆◆

関係演算子列をクリックし、“数値：より大きい”を設定します。

図：関係演算子の設定

条件式

	条件の対象	値
☒	もし 得点	平均点

追加

数値: より大きい
 文字列: 含む
 文字列: 含まない
 数値: 等しい
 数値: 等しくない
 数値: より大きい
 数値: より小さい
 数値: 以上
 数値: 以下
 日付: 等しい
 日付: 等しくない
 日付: より大きい
 日付: より小さい
 日付: 前日

OK キャンセル

◆◆ 操作 ◆◆

[OK] ボタンをクリックします。

条件式が設定されました。

以上で1つ目の条件式設定は完了です。

2-5. 実行式を設定

「得点が平均点より大きい場合は、教科のフォントを太字にする」

「得点が平均点より大きい場合は、得点のフォント色を青色にする」の実行式を設定します。

まずは「得点が平均点より大きい場合は、教科のフォントを太字にする」の「教科のフォントを太字」の部分を設定します。

◆◆ 操作 ◆◆

条件設定の追加ダイアログから「実行式」ボタンをクリックします。

図：実行式ダイアログ



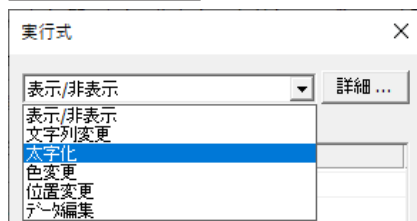
実行式ダイアログが表示されます。

2-5-1. 実行項目を設定

◆◆ 操作 ◆◆

コンボボックスから“太字化”を選択します。

図：実行項目の選択



2-5-2. 対象オブジェクトを設定

◆◆ 操作 ◆◆

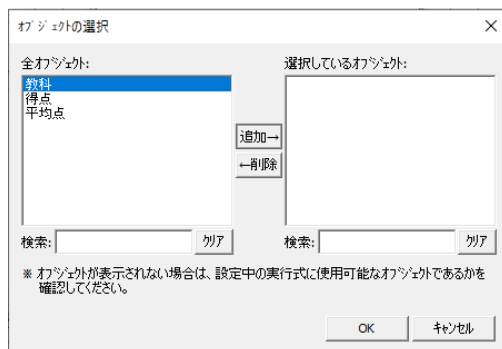
実行式ダイアログから「追加」ボタンをクリックします。

オブジェクトの選択ダイアログが表示されます。

◆◆ 操作 ◆◆

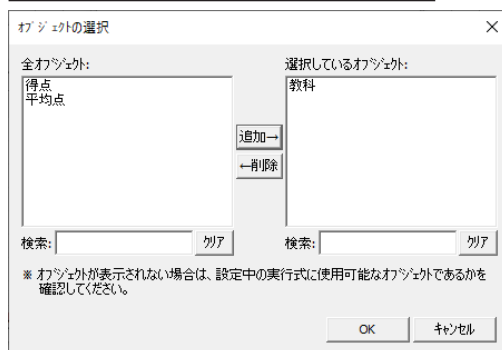
全オブジェクトリストから“教科”を選択し、「追加→」ボタンをクリックします。

図：オブジェクトの選択ダイアログ



“教科”オブジェクトが選択しているオブジェクトリストに移動しました。

図：選択しているオブジェクトリストに移動



◆◆ 操作 ◆◆

[OK] ボタンをクリックします。

実行式が設定されました。

実行式ダイアログの対象オブジェクトリストに“教科”が追加されていることを確認します。

図：実行式ダイアログ

オブジェクト名	教科
教科	

◆◆ 操作 ◆◆

[OK] ボタンをクリックします。

以上で「得点が平均点より大きい場合は、教科のフォントを太字にする」の条件式と実行式の設定は完了しました。
次に「得点が平均点より大きい場合は、得点のフォント色を青色にする」を設定します。

2-5-3. 複数の実行式を設定

同じ条件式に対し実行式を複数作成します。
条件設定ダイアログのケース名が “ 平均点の色指定 ” と表示されていることを確認します。

◆◆ 操作 ◆◆

条件設定ダイアログの右側のリストで、作成した条件を選択します。

図：条件設定ダイアログで条件式を選択する

No.	ケース名
0001	平均点の色指定

優先順位	条件式	対象オブジェクト	実行式
0001	if テキスト変数(得点) > テキスト...	教科	太字

◆◆ 操作 ◆◆

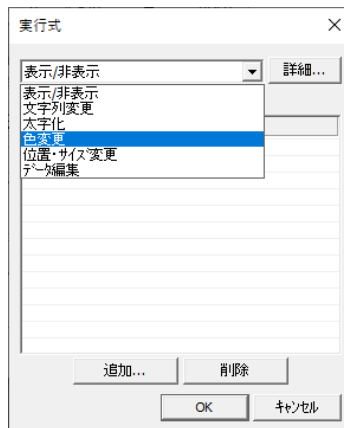
[実行式の追加] ボタンをクリックします。

実行式ダイアログが表示されます。

◆◆ 操作 ◆◆

コンボボックスから“色変更”を選択します。

図：実行項目の選択



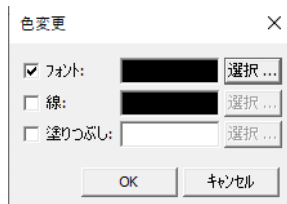
色変更ダイアログが表示されます。

※ [詳細] ボタンからも色変更ダイアログを表示することができます。

◆◆ 操作 ◆◆

[フォント] のチェックを入れます。

図：色変更ダイアログ



◆◆ 操作 ◆◆

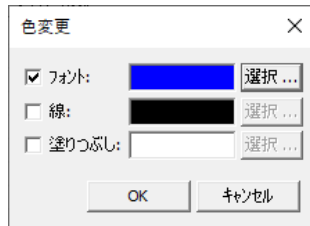
[フォント] の [選択] ボタンをクリックします。

色の選択ダイアログが表示されます。

ここでは、カラーリストの中から“青（インデックス:220）”の色を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

色変更ダイアログで選択した色が反映されているか確認し、[OK] ボタンをクリックします。

図：フォント色の設定後



◆◆ 操作 ◆◆

実行式ダイアログから[追加]ボタンをクリックします。

オブジェクトの選択ダイアログが表示されます。

◆◆ 操作 ◆◆

全オブジェクトリストから“得点”を選択し、[追加→]ボタンをクリックします。

“得点”オブジェクトが選択しているオブジェクトリストに移動しました。

◆◆ 操作 ◆◆

[OK]ボタンをクリックします。

実行式が設定されました。

実行式ダイアログの対象オブジェクトリストに“得点”オブジェクトが追加されていることを確認します。

図：得点オブジェクト追加後の実行式ダイアログ



◆◆ 操作 ◆◆

[OK]ボタンをクリックします。

以上で「得点が平均点より大きい場合は、得点のフォント色を青色にする」の実行式の設定は完了しました。

次に「得点が平均点より小さい場合は、得点のフォント色を赤色にする」を設定します。

2-6. 複数の条件セットを作成

「得点が平均点より小さい場合は、得点のフォント色を赤色にする」の条件セットを作成します。

条件設定ダイアログのケース名が“平均点の色指定”と表示されていることを確認し、同様に「条件設定の追加」ボタンを押し、条件設定の追加ダイアログの「条件式」ボタンで条件式ダイアログを表示します。

◆◆ 操作 ◆◆

条件の対象列をクリックします。

条件の対象の設定ダイアログが表示されます。

◆◆ 操作 ◆◆

[項目の種類]に“テキスト変数(他変数)”, [テキスト変数名]に“得点”を設定します。
[OK] ボタンをクリックします。

◆◆ 操作 ◆◆

値列をクリックします。

値の設定ダイアログが表示されます。

◆◆ 操作 ◆◆

[項目の種類] に “ テキスト変数 (他変数) ”、[テキスト変数名] に “ 平均点 ” を設定します。
[OK] ボタンをクリックします。

◆◆ 操作 ◆◆

関係演算子列をクリックし、“数値：より小さい”を設定します。

図：関係演算子の設定

条件式

条件の対象		値
☒	もし 得点	平均点

追加

数値: より小さい

文字列: 含む

文字列: 含まない

数値: 等しい

数値: 等しくない

数値: より大きい

数値: より小さい

数値: 以上

数値: 以下

日付: 等しい

日付: 等しくない

日付: より大きい

日付: より小さい

日付: 以上

日付: 以下

OK キャンセル

◆◆ 操作 ◆◆

[OK] ボタンをクリックします。

以上で2つ目の条件式設定は完了です。

次に「平均点より小さい場合は、得点のフォント色を赤色にする」の実行式を設定します。

◆◆ 操作 ◆◆

条件設定の追加ダイアログから [実行式] ボタンをクリックします。

実行式ダイアログが表示されます。

◆◆ 操作 ◆◆

コンボボックスから “ 色変更 ” を選択します。

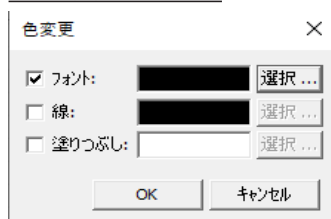
[色変更ダイアログ] が表示されます。

※ [詳細] ボタンからも色変更ダイアログを表示することができます。

◆◆ 操作 ◆◆

[フォント] にチェックを入れます。

図：色変更ダイアログ



◆◆ 操作 ◆◆

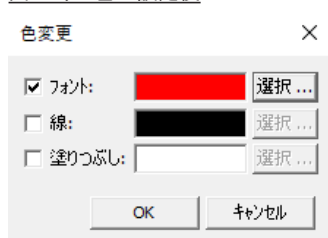
[フォント] の [選択] ボタンをクリックします。

色の選択ダイアログが表示されます。

ここでは、カラーリストの中から “ 赤 (インデックス:170) ” の色を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

色変更ダイアログで選択した色が反映されているか確認し、[OK] ボタンをクリックします。

図：フォント色の設定後



◆◆ 操作 ◆◆

実行式ダイアログから [追加] ボタンをクリックします。

オブジェクトの選択ダイアログが表示されます。

◆◆ 操作 ◆◆

全オブジェクトリストから“得点”を選択し、[追加→] ボタンをクリックします。

“得点”オブジェクトが選択しているオブジェクトリストに移動しました。

◆◆ 操作 ◆◆

[OK] ボタンをクリックします。

実行式が設定されました。

実行式ダイアログの対象オブジェクトリストに“得点”オブジェクトが追加されていることを確認します。

図：得点オブジェクト追加後の実行式ダイアログ



◆◆ 操作 ◆◆

[OK] ボタンをクリックします。

条件設定の追加ダイアログに戻ります。

◆◆ 操作 ◆◆

[OK] ボタンをクリックします。

条件設定ダイアログに戻り、すべての条件式と実行式を確認します。

図：すべての条件設定後の条件設定ダイアログ

No.	ケース名
0001	平均点の色指定

ケース名: 平均点の色指定			
優先順位	条件式	対象変数	実行式
0001	if 得点 > テキスト変数(平均点)	教科	太字
0002	if 得点 < テキスト変数(平均点)	得点	フォント色(c100m100y0k0)
		得点	フォント色(c0m100y100k0)

Buttons: 追加, 削除, ↑, ↓, 条件設定の追加..., 実行式の追加..., 削除, ↑, ↓, 閉じる

◆◆ 操作 ◆◆

[閉じる] ボタンをクリックします。

以上ですべての条件セットの実行式の設定は終了しました。
最後に Form ファイルを保存して終了します。

◆◆ 操作 ◆◆

メニュー [ファイル] - [上書き保存] をクリックします。

変更内容が保存されました。Form エディターを終了します。

◆◆ 操作 ◆◆

メニュー [ファイル] - [Form エディターの終了] をクリックします。

マネージャーに戻ります。

2-7. Datamap ファイルの確認

Datamap ファイル "Condition_Setting.dmp" の内容を確認します。

◆◆ 操作 ◆◆

帳票 "条件設定" のプレビューをクリックし、マネージャーのツールボタン [データマップ編集] をクリックします。

図：Datamap ファイル“Condition_Setting.dmp”

実数名	種別	属性	行	項目番号	行数	項目数
国語	国語	70		67.9		
数学	数学	82		89.1		
社会	社会	64		49.8		
理科	理科	90		79.6		
英語	英語	72		72.0		
音楽	音楽	60		76.4		
家庭科	家庭科	80		52.0		
美術	美術	82		78.0		

確認した Datamap ファイルは、作業ディレクトリに存在する csv データファイル
“Condition_Setting.csv” とデータマッピング済みです。

Datamap ファイルの確認後は、そのまま保存せずに Datamap エディターを終了します。

◆◆ 操作 ◆◆

Datamap エディターのメニュー [ファイル]-[Datamap エディターの終了] を選択して
Datamap エディターを終了します。

2-8. プレビュー確認

それでは、作成した Job ファイルと CSV データファイルを使用して条件設定帳票の出力結果
を確認します。

◆◆ 操作 ◆◆

プレビュー領域から帳票“Condition_Setting”を選択し、ツールボタン [実行] をクリックします。

テスト実行ダイアログが表示されます。

図：実行ダイアログ

ID	データマップ名	データタイプ	データソース名
1	Condition_Setting	CSV	condition_Setting.csv

それぞれの設定項目が正しいことを確認し、テスト実行を行います。

◆◆ 操作 ◆◆

[実行ランタイム] - [PDF] - [Cast] ラジオボタンが選択されていることを確認して、[プレビュー] ボタンをクリックします。

図：プレビュー画面

成績表

教科	得点	平均点
国語	70	67.9
数学	62	69.1
社会	64	48.8
理科	90	73.6
英語	72	72.0
音楽	60	76.4
家庭科	90	52.0
美術	62	78.0

得点が平均点より大きい教科の文字が太字、得点のフォント色が青色になっていること
得点が平均点より小さい得点のフォント色が赤色になっていることを確認できます。

以上で、条件設定機能を使用した帳票が完成しました。

3. 条件設定の構成

3-1. ケース

条件式と実行式のセットの集まりを「ケース」と呼びます。

1 つのフォームで設定できるケース数は最大 50 ケースです。

ケース名に使用できる文字は、半角文字、全角文字、記号で最大 20 バイトまで入力可能です。

※全角文字は、JIS 第 1 水準漢字、JIS 第 2 水準漢字から指定できます。

ケース名は重複して付けることはできません。

ケースに設定された条件式は上から順に判定されます。

すべての条件式が真の場合は、すべての実行式が適用されます。

同じ対象オブジェクトを選択している場合は、最後に真になった条件の実行式が適用されます。

例) ケース 1

もし TEXT000==1 なら TEXT001 を赤 TEXT002 を青

もし TEXT001==1 なら TEXT001 を青 TEXT003 を紫

もし TEXT002==1 なら TEXT001 を黄

データ

TEXT000 → 1 TEXT001 → 1 TEXT002 → 1

実行結果

TEXT001 は黄、TEXT002 は青、TEXT003 は紫という結果になります。

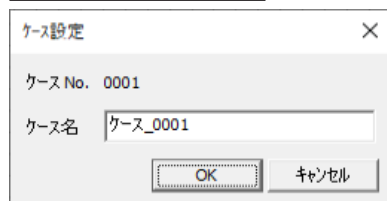
ケース名を設定

ケース名を設定する方法は 2 通りあります。

- ・ 条件設定ダイアログからの設定方法

条件設定ダイアログの [追加] ボタンまたはケースを選択し右クリックのコンテキストメニューから [追加] を選択、ケース設定ダイアログからケース名を設定します。

図：ケース設定ダイアログ



- ・ 条件設定の追加ダイアログからの設定方法

帳票上で右クリックし、コンテキストメニューから [条件設定の追加] を選択し、条件設定の追加ダイアログからケース名を設定します。

図：条件設定の追加ダイアログのケース名

ケース名を編集

条件設定ダイアログでケース名を編集したいケースを選択し、右クリックのコンテキストメニューから「編集」を選択し、ケース設定ダイアログからケース名を編集します。

ケースの順序を入れ替える

条件設定ダイアログで入れ替えたいケースを選択し、[↑][↓] ボタンで順序を入れ替えます。

ケースを複写

条件設定ダイアログで複写したいケースを選択、右クリックのコンテキストメニューから「複写」を実行で複写します。

複写したケースのケース名には連番が付与されます。

ケースを削除

条件設定ダイアログの「削除」ボタンまたは削除したいケースを選択、右クリックのコンテキストメニューから「削除」を実行で削除します。

3-2. 条件式**3-2-1. 条件の対象**

条件の対象は以下の9種類より選択します。

- ・テキスト変数（自変数）
- ・テキスト変数（他変数）
- ・今日の日付（YYYYMMDD）
- ・今日の日付（年）(YYYY)
- ・今日の日付（月）(MM)
- ・今日の日付（日）(DD)
- ・現在のページ数
- ・最初のページなら
- ・最後のページなら

■テキスト変数（自変数）

自変数は実行式の対象オブジェクトに設定された変数オブジェクトです。

変数オブジェクトにマッピングされたデータを条件の対象とします。

※条件の対象に自変数を選択した場合、実行式の対象オブジェクトにはテキスト変数と表のセルのみ設定できます。

■テキスト変数（他変数）

他変数は同一ページ内の変数オブジェクトにマッピングされたデータを条件の対象とします。

※ データ編集が設定された変数は条件の対象に使用できません。

他変数に設定できる変数オブジェクトは以下の通りです。

- ・ テキスト変数
- ・ 表のセル（形式：テキスト）

■今日の日付（年月日）(YYYYMMDD)

出力日の日付を条件の対象にすることができます。

日付は「YYYYMMDD」の形式で比較されます。

今日の日付 (YYYYMMDD) を条件の対象に設定した場合の条件式例

例) 今日の日付 (YYYYMMDD) 日付：等しい 固定値「20210101」

■今日の日付（年）(YYYY)

出力日の日付を条件の対象にすることができます。

日付は「YYYY」の形式で比較されます。

今日の日付 (YYYY) を条件の対象に設定した場合の条件式例

例) 今日の日付 (YYYY) 日付：等しい 固定値「2021」

■今日の日付（月）(MM)

出力日の日付を条件の対象にすることができます。

日付は「MM」の形式で比較されます。

今日の日付 (MM) を条件の対象に設定した場合の条件式例

例) 今日の日付 (MM) 日付：等しい 固定値「01」

■今日の日付（日）(DD)

出力日の日付を条件の対象にすることができます。

日付は「DD」の形式で比較されます。

今日の日付 (DD) を条件の対象に設定した場合の条件式例

例) 今日の日付 (DD) 日付：等しい 固定値「01」

■現在のページ数

出力ページのページ番号を条件の対象にすることができます。

開始ページ設定時やページのリセット設定時にも、常に1ページ目からのページカウント数で判定されます。

現在のページ数を条件の対象に設定した場合の条件式例

例) 現在のページ数 数値：等しい 固定値「2」

■最初のページなら

出力帳票の最初のページを条件式として設定することができます。
ユニット指定等によらず、常に帳票全体の最初のページで判定されます。

■最後のページなら

出力帳票の最後のページを条件式として設定することができます。
ユニット指定等によらず、常に帳票全体の最後のページで判定されます。

3-2-2. 値

値は以下の3種類より選択します。

- ・ 自変数
- ・ 他変数
- ・ 固定値

■テキスト変数（自変数）

自変数は実行式の対象オブジェクトに設定されたテキスト変数オブジェクト、または表のセルを値とします。

※値に自変数を選択した場合、実行式の対象オブジェクトにはテキスト変数と表のセルのみ設定できます。

■テキスト変数（他変数）

他変数は同一ページ内のテキスト変数オブジェクトにマッピングされたデータを値とします。

他変数に設定できる変数オブジェクトは以下の通りです。

- ・ テキスト変数
- ・ 表のセル（形式：テキスト）

■固定値

指定した数値または文字列を値とします。

入力できる値は以下の通りです。

- ・ 文字列
最大長：64 バイト
使用可能文字：半角英数字、記号、JIS 第1水準漢字、JIS 第2水準漢字
※改行は指定できません。
- ・ 数値（関係演算子が数値の場合のみ）
整数部 11 桁、小数部 3 桁

※条件の対象に最初のページならまたは最後のページならが選択されている場合は、値の設定はできません。

3-2-3. 関係演算子

関係演算子は以下の 16 種類より選択します。

文字列	等しい	条件の対象と値が等しい
	等しくない	条件の対象と値が等しくない
	含む	条件の対象が値を含む
	含まない	条件の対象が値を含まない
数値	等しい	条件の対象と値が等しい
	等しくない	条件の対象と値が等しくない
	より大きい	条件の対象が値より大きい（値の数値は含まない）
	より小さい	条件の対象が値より小さい（値の数値は含まない）
	以上	条件の対象が値より大きい（値の数値を含む）
	以下	条件の対象が値より小さい（値の数値も含む）
日付	等しい	条件の対象と値が等しい
	等しくない	条件の対象と値が等しくない
	より大きい	条件の対象が値より大きい（値の日付は含まない）
	より小さい	条件の対象が値より小さい（値の日付は含まない）
	以上	条件の対象が値より大きい（値の日付を含む）
	以下	条件の対象が値より小さい（値の日付も含む）

※条件の対象に最初のページならまたは最後のページならが選択されている場合は、関係演算子の設定はできません。

3-2-4. 論理演算子

条件式ダイアログの [追加] ボタンから条件式を追加し [かつ]、[または] の論理演算子を選択することにより複数の条件を設定することができます。

※論理演算子を用いて設定できる式数は最大 20 です。

※論理演算子を用いた複数の条件を作成する場合、条件の対象に自変数が含まれている場合は条件の対象が他変数と組み合わせて使うことはできません。

3-3. 実行式

実行式ではオブジェクトの属性変更またはデータ編集と対象オブジェクトを設定します。
条件式の判定が真となった場合に、実行する変更処理を実行式とします。

<< 注意 >>

表連携オブジェクトは条件の対象に自変数と設定されている場合のみ、設定できます。

3-3-1. オブジェクトの属性変更

- ・表示 / 非表示
オブジェクトを表示または非表示にすることができます。
- ・文字列変更
オブジェクトの文字列を変更することができます。
- ・太字
オブジェクトのフォントを太字にすることができます。
- ・色変更
フォント色
オブジェクトのフォント色を変更することができます。
線色
オブジェクトの線色を変更することができます。
塗りつぶし
オブジェクトの塗りつぶし（背景色）を変更することができます。
- ・位置・サイズ変更
位置
「現在位置からの相対位置」または「絶対位置」を選択し、開始点を設定することで
オブジェクトを移動することができます。
サイズ
「現在サイズからの相対サイズ」または「絶対サイズ」を選択し、高さと幅を設定する
ことでオブジェクトのサイズを変更させることができます。

3-3-2. データ編集

データ編集は、予め用意されたデータ編集の形式を選択することで入力されたデータに対して
何らかの加工を行うことができます。

※データ編集についての詳細はマネージャーのメニュー [ヘルプ] - [オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.4 集計値の表示とデータ編集」-「データ編集」を
ご覧ください。

3-3-3. 対象オブジェクト

対象オブジェクトは、変更の対象としたいオブジェクトを変数名もしくはオブジェクト名で指定します。

変数名、オブジェクト名の指定方法は、以下の通りです。

- ・ 変数の場合
変数のプロパティ画面の [変数名] に変数名を指定します。
- ・ 固定オブジェクトの場合
固定オブジェクトのプロパティ画面の [オブジェクト名] にオブジェクト名を指定します。

オブジェクト属性変更の内容またはデータ編集により対象オブジェクトに設定できるオブジェクトが限られます。

■ [表示 / 非表示] で設定できる対象オブジェクト

固定テキスト

直線

四角形

楕円

罫線

固定イメージ

テキスト変数

ページ変数

日付変数

マーク変数

リンク変数

バーコード変数

2D コード変数

イメージ変数

グラフ変数

PDF 変数

■ [文字列] で設定できる対象オブジェクト

固定テキスト

■ [太字] で設定できる対象オブジェクト

固定テキスト

テキスト変数

ページ変数

日付変数

リンク変数

表のセル（形式：テキストのみ）

■ 色変更 [フォント色] で設定できる対象オブジェクト

固定テキスト

テキスト変数

ページ変数

日付変数

リンク変数

表のセル（形式：テキストのみ）

■色変更 [線色] で設定できる対象オブジェクト

直線

四角形

楕円

罫線

■色変更 [塗りつぶし] で設定できる対象オブジェクト

四角形

楕円

テキスト変数

表のセル（形式：テキストのみ）

■位置・サイズ変更 [位置] で設定できる対象オブジェクト

固定テキスト

直線

四角形

楕円

罫線

固定イメージ

テキスト変数

ページ変数

日付変数

マーク変数

リンク変数

バーコード変数

2D コード変数

イメージ変数

グラフ変数

PDF 変数

■位置・サイズ変更 [サイズ] で設定できる対象オブジェクト

固定テキスト

直線

四角形

楕円

罫線

固定イメージ

テキスト変数

リンク変数

イメージ変数

グラフ変数

PDF 変数

- [データ編集] で設定できる対象オブジェクト
 - テキスト変数
 - ページ変数
 - 日付変数
 - リンク変数

3-4. 複数の条件式・実行式

3-4-1. 複数の条件式

1つのケース内で条件式を複数作成することができます。

例) もし、最初のページなら

もし、今日の日付が他変数と等しい など

※ 1ケースで設定できる条件式は最大 50 です。

※ 「かつ」「または」で続けられる条件式は最大 20 です。

※ 論理演算子は前方から判定します。たとえば、「a かつ b または c」とあるとき、「(a かつ b) または c」と判定されます。

複数の条件式の設定については「4-1-1. 新規の条件セットを設定する」をご覧ください。

3-4-2. 複数の実行式

1つの条件式に対して複数の実行式を設定することができます。

例) もし、最初のページなら 四角形を非表示にする

テキスト変数を太字にする など

※ 1つの条件式に対して設定できる実行式は最大 10 です。

※ 同一のオブジェクトに同種の実行式が複数回適用された場合は後方で指定された実行式が有効になります。

複数の実行式の追加については「4-1-2. 実行式を追加する」をご覧ください。

4. 条件設定の詳細

4-1. 条件設定ダイアログ

条件設定ダイアログは条件の設定、順序の入れ替え、削除などができるダイアログです。

条件設定ダイアログの起動方法は4通りあります。

- ・Form エディターのメニュー [編集] から [条件設定] をします。
- ・Form エディターのツールバー [条件設定] アイコンをクリックします。

図：[条件設定] アイコン



- ・帳票上で右クリックし、コンテキストメニューから [条件設定の編集] を選択します。
- ・すでに条件設定されている固定オブジェクトや変数オブジェクトのプロパティを開き、右上の [条件設定] ボタンをクリックします。

図：条件設定ダイアログ

[条件設定の追加]

条件設定の追加ダイアログが表示されます。

条件式の追加ダイアログについては「4-2. 条件設定の追加ダイアログ」をご覧ください。

[実行式の追加]

実行式ダイアログが表示されます。

[削除] ボタン

条件式・実行式の削除ダイアログが表示されます。

[↑][↓] ボタン

選択された条件式または実行式の順序を入れ替えることができます。

条件式と実行式の組み合わせは変わらず行ごとに順序が入れ替わります。

[閉じる]

条件設定ダイアログを終了します。

<< 注意 >>

条件設定ダイアログに！アイコンが表示されている場合は、条件設定しているオブジェクトが存在していない可能性があります。

存在していない変数名またはオブジェクト名がリスト上に警告メッセージとして表示されます。

警告メッセージに表示されたオブジェクトを使用している条件式または実行式のオブジェクトに誤りがないか確認してください。

図 .! アイコンと警告メッセージ

条件設定

No.	ケース名	条件式、実行式に指定されている次の対象オブジェクトが存在しません: TEXT003			
0001	ケース_0001	優先順位	条件式	対象オブジェクト	実行式
		!	0001 if TEXT000 含む "1", etc.	TEXT002, TEXT003	塗り色(c0m68y52k0)

4-1-1. 新規の条件セットを設定

〔条件設定の追加〕ボタンまたは条件設定した行を選択し右クリックメニューから〔条件設定の追加〕を選択すると条件設定の追加ダイアログが表示され新規の条件セットを設定することができます。

4-1-2. 実行式を追加

実行式を追加したい条件式の行を選択し、〔実行式の追加〕ボタンまたは右クリックのコンテキストメニューから〔実行式追加〕をクリックを選択すると実行式ダイアログが表示され実行式を追加することができます。

4-1-3. 条件式を変更

変更したい条件式の行を選択し、右クリックのコンテキストメニューから〔条件式詳細〕を選択すると条件式ダイアログが表示され条件式を変更することができます。

4-1-4. 実行式を変更

変更したい実行式の行を選択し、右クリックのコンテキストメニューから〔実行式詳細〕を選択すると実行式ダイアログが表示され実行式を変更することができます。

4-1-5. 条件式または実行式を削除

削除したい条件式または実行式の行を選択し、〔削除〕ボタンまたは右クリックのコンテキストメニューから〔削除〕を選択すると条件式・実行式の削除ダイアログが表示されます。

[条件式を削除する] を選択した場合

選択した行の条件式のみが削除されます。

[実行式を削除する] を選択した場合

選択した行の実行式のみが削除されます。

[OK] ボタン

選択された条件式または実行式のみが削除されます。

[キャンセル] ボタン

条件式または実行式は削除されず条件式・実行式の削除ダイアログを終了します。

4-1-6. 条件式または実行式を複製

複製したい条件式または実行式の行を選択し、右クリックのコンテキストメニューから [複製] を選択すると

条件式・実行式の複製ダイアログが表示されます。

[条件式を複製する] を選択した場合

選択した行の条件式のみが複製されます。

[実行式を複製する] を選択した場合

選択した行の実行式のみが複製されます。

[OK] ボタン

選択された条件式または実行式のみが複製されます。

[キャンセル] ボタン

条件式または実行式は複製されず条件式・実行式の複製ダイアログを終了します。

<< 注意 >>

対象オブジェクトに表のセルが含まれている場合、条件式と実行式は複製できません。

4-1-7. 条件セットの順序を入れ替え

順序を入れ替えたい条件セットの行を選択し、[↑] [↓] ボタンまたは右クリックのコンテキストメニューから [上へ] [下へ] を選択する

条件セットの順序を入れ替えることができます。

4-2. 条件設定の追加ダイアログ

条件設定の追加ダイアログは条件式と実行式を設定できるダイアログです。

条件設定の追加ダイアログの起動方法は 4 通りあります。

- ・条件設定ダイアログから [条件設定の追加] ボタンをクリックします。
- ・条件設定した行を選択し右クリックのコンテキストメニューから [条件設定の追加] をクリックします。
- ・帳票上で右クリックし、コンテキストメニューから [条件設定の追加] をクリックします。
- ・条件設定されていない固定オブジェクトや変数オブジェクトのプロパティを開き、右上の [条件設定] ボタンをクリックします。

図：条件設定の追加ダイアログ

[ケース名]

条件設定ダイアログの [条件設定の追加] からダイアログを起動した場合は、現在、選択中のケース名が表示されます。

右クリックのコンテキストメニューの [条件設定の追加] からダイアログを起動した場合は、ケース名を入力することができます。

[条件式] ボタン

条件式ダイアログが表示されます。

[実行式] ボタン

実行式ダイアログが表示されます。

[OK] ボタン

条件設定ダイアログが表示されます。

[キャンセル]

条件設定の追加ダイアログを終了します。

4-3. 条件式の設定

条件式の設定は条件式ダイアログから行います。

条件式ダイアログは条件設定の追加ダイアログの [条件式] ボタンから起動します。

図：条件式ダイアログ

	条件の対象		値
☒	もし	-	文字列: 等しい
☐			
☐			
☐			
☐			
☐			

〔論理演算子〕

論理演算子（もし、かつ、または）が表示されます。

〔関係演算子〕

関係演算子（「文字列：等しい」など）が表示されます。

〔追加〕ボタン

条件を追加することができます。

〔削除〕ボタン

条件を削除することができます。

〔↑〕〔↓〕ボタン

条件の順序を入れ替えることができます。

4-3-1. 条件の対象を設定

条件の対象列をクリックし条件の対象の設定ダイアログを起動させ条件の対象となる項目を設定します。

図：条件の対象の設定ダイアログ



〔項目の種類〕

条件の対象となる項目をコンボボックスから選択します。

〔テキスト変数名〕

項目の種類で「テキスト変数（他変数）」を選択した場合、コンボボックスから帳票上に配置されたテキスト変数を選択することができます。

〔OK〕ボタン

条件の対象が設定され条件式ダイアログに戻ります。

〔キャンセル〕ボタン

条件の対象は設定されず、条件の対象の設定ダイアログを終了します。

4-3-2. 値を設定

値列をクリックし値の設定ダイアログを起動させ値の項目を選択または入力して設定します。

図：値の設定ダイアログ

[項目の種類]

値となる項目をコンボボックスから選択します。

[テキスト変数名]

項目の種類で「テキスト変数（他変数）」を選択した場合、コンボボックスから帳票上に配置されたテキスト変数またはセルを選択することができます。

[固定値]

項目の種類で「固定値」を選択した場合、固定値を入力することができます。

[OK] ボタン

値が設定され条件式ダイアログに戻ります。

[キャンセル] ボタン

値は設定されず、値の設定ダイアログを終了します。

4-3-3. 関係演算子を設定

「文字列：等しい」の列をクリックし、表示されたコンボボックスで文字列系・数値系・日付系の中から関係演算子を選択します。

4-3-4. 論理演算子を変更

条件を追加した場合、「かつ」をクリックすることで、論理演算子を「または」に変更することができます。

「かつ」「または」の条件行を選択し、[↑] ボタンまたは右クリックのコンテキストメニューの [上へ] で先頭行に移動すると論理演算子が「もし」に変更されます。

4-3-5. 条件を追加

[追加] ボタンをクリックすると、条件を追加することができます。

4-3-6. 条件を削除

削除したい条件にチェックを入れ、[削除] ボタンをクリックすると条件を削除することができます。

4-3-7. 条件の順序を入れ替え

移動したい条件にチェックを入れ、[↑] ボタンまたは[↓] ボタンをクリックすると順序を入れ替えることができます。

4-4. 実行式の設定

実行式の設定は実行式ダイアログから行います。

実行式ダイアログは条件設定の追加ダイアログの [実行式] ボタンまたは条件設定ダイアログの [実行式の追加] から起動します。

図：実行式ダイアログ



[実行式属性のコンボボックス]

オブジェクトの属性変更の種類またはデータ編集を選択します。

[詳細] ボタン

コンボボックスで選択した実行式属性の設定値を設定するダイアログを表示します。

対象オブジェクトリスト

対象オブジェクトに設定されたオブジェクトが表示される

[追加] ボタン

対象オブジェクトを追加するオブジェクトの選択ダイアログが表示されます。
オブジェクトの選択については「4-4-2. 対象オブジェクトを設定する」をご覧ください。

[OK] ボタン

実行式が設定され、条件設定の追加ダイアログまたは条件設定ダイアログに戻ります。

[キャンセル] ボタン

実行式は設定されず、実行式ダイアログを終了します。

4-4-1. オブジェクト属性変更内容またはデータ編集内容を設定

実行式属性のコンボボックスで実行したいオブジェクト属性変更またはデータ編集をコンボボックスで選択します。

※帳票上に配置されているオブジェクトが1つもない場合、実行式属性のコンボボックスは開けません。

実行式ダイアログのコンボボックスで実行したい属性を選択すると、選択した属性のダイアログが表示されるので、詳細な設定値を設定します。

※太字化を選択した場合はダイアログが表示されません。

4-4-2. 対象オブジェクトを設定

条件が真になった場合に、対象となるオブジェクトを設定します。
対象オブジェクトの最大オブジェクト数は3000です。

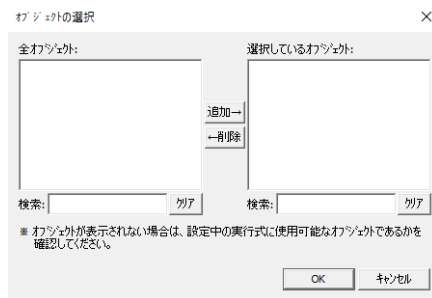
<< 注意 >>

対象オブジェクトに表のセルを設定する場合、1つの条件式に対して対象オブジェクトに設定できる表のセルは1つのみです。
実行式の追加でもセルを2つ設定することはできません。

オブジェクトの選択ダイアログからの設定

1. 実行式ダイアログの [追加] ボタンをクリックすると、オブジェクトの選択ダイアログが表示されます。

図：オブジェクトの選択ダイアログ



全オブジェクトリスト

帳票上に配置した変数名やオブジェクト名が表示されます。

コンボボックスで実行式を設定している場合は、設定した実行式に使用可能な変数名やオブジェクト名のみのみが表示されます。

選択しているオブジェクトリスト

対象オブジェクトに設定されている変数名やオブジェクト名が表示されます。

[検索]

全オブジェクトリストまたは選択しているオブジェクトリストから変数名やオブジェクト名を検索します。

[クリア] ボタン

検索文字列をクリアします。

[追加→] ボタン

全オブジェクトリストからオブジェクトを選択しているオブジェクトリストに移動します。

[←削除] ボタン

選択しているオブジェクトリストからオブジェクトを全オブジェクトリストに移動します。

[OK] ボタン

対象オブジェクトが追加されます。

[キャンセル] ボタン

対象オブジェクトは追加されず、オブジェクトの選択ダイアログを終了します。

2. オブジェクトの選択ダイアログで全オブジェクトリストから対象オブジェクトにしたい変数名やオブジェクト名を選択します。
3. [追加→] ボタンをクリックすると、選択しているオブジェクトリストに選択したオブジェクトが移動します。
変数名やオブジェクト名をダブルクリックしてもオブジェクトを移動することができます。
4. 選択しているオブジェクトリストにオブジェクトがあることを確認し、[OK] ボタンをクリックで対象オブジェクトに追加されます。

<< 注意 >>

対象オブジェクトに選択したいオブジェクトが表示されない場合は、

以下を確認してください。

- ・オブジェクト名を付けているか
- ・選択したいオブジェクトには設定できない実行式属性を選択していないか

例) 四角形オブジェクトを対象オブジェクトにしたいが、実行式属性は太字を選択している

実行式属性と対象オブジェクトに設定できるオブジェクトについては、
「3-3-3. 対象オブジェクト」をご覧ください。

オブジェクトの選択ダイアログなしの設定

- ・帳票上で対象オブジェクトに設定したいオブジェクトを選択した状態で、右クリックメニューの「条件設定の追加」を選択し条件設定の追加ダイアログを開きます。
選択したオブジェクトが対象オブジェクトに設定されています。
- ・帳票上で対象オブジェクトに設定したいオブジェクトのプロパティを開き、「条件設定」ボタンで「条件設定の追加」ボタンで条件設定の追加ダイアログを開きます。
選択したオブジェクトが対象オブジェクトに設定されています。
※オブジェクトを複数選択している場合は、条件設定ダイアログが表示されます。

4-4-3. 対象オブジェクトを削除

対象オブジェクトからオブジェクトを削除することができます。

設定されている対象オブジェクトを削除

- ・実行式ダイアログを開き、対象オブジェクトから削除したいオブジェクトにチェックを入れ、「削除」ボタンをクリックするとオブジェクトが対象オブジェクトから削除することができます。
- ・実行式ダイアログから「追加」ボタンでオブジェクトの選択ダイアログを開き、選択しているオブジェクトリストから対象オブジェクトから削除したいオブジェクトを選択します。
「←削除」ボタンまたはダブルクリックで対象オブジェクトから削除することができます。

4-4-4. オブジェクトを検索

対象オブジェクトに設定するオブジェクトを検索することができます。

全オブジェクトリストからオブジェクトの検索

[全オブジェクト] リストの検索欄に検索したい文字列を入力すると、検索結果が[全オブジェクト] リストに表示されます。

[クリア] ボタンをクリックすると検索前の[全オブジェクト] リストに戻ります。

選択しているオブジェクトリストからオブジェクトの検索

選択しているオブジェクトリストの検索欄に検索したい文字列を入力すると、検索結果が選択しているオブジェクトリストに表示されます。

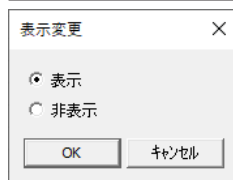
[クリア] ボタンをクリックすると検索前の選択しているオブジェクトリストに戻ります。

4-5. 表示 / 非表示

実行式ダイアログのコンボボックスから「表示 / 非表示」を選択すると、表示変更ダイアログが表示され実行式を変更することができます。

また実行式ダイアログの[詳細] ボタンからも表示変更ダイアログを表示することができます。

図：表示変更ダイアログ



「表示」または「非表示」を選択し、[OK] ボタンで設定します。

※実行式の対象オブジェクトは「3-3-3. 対象オブジェクト」をご覧ください。

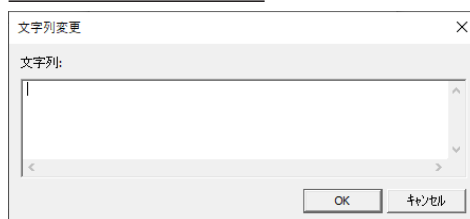
4-6. 文字列変更

文字列の変更設定は文字列変更ダイアログから行います。起動方法は以下の通りです。

実行式ダイアログのコンボボックスから[文字列変更]を選択すると、文字列変更ダイアログが表示されます。

また実行式ダイアログの[詳細] ボタンからも文字列変更ダイアログを表示することができます。

図：文字列変更ダイアログ



文字列の入力欄に変更後の文字列を入力します。

利用できる文字は、半角文字、全角文字、記号で最大文字数は 10240 バイトです。

※全角文字は JIS 第 1 水準漢字、JIS 第 2 水準漢字から指定できます。

※実行式の対象オブジェクトは「3-3-3. 対象オブジェクト」をご覧ください。

4-7. 太字化

太字化の設定は、実行式ダイアログのコンボボックスから「太字化」を選択します。

※実行式の対象オブジェクトは「3-3-3. 対象オブジェクト」をご覧ください。

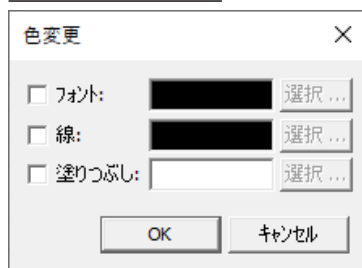
4-8. 色変更

色変更設定は色変更ダイアログから行います。起動方法は以下の通りです。

実行式ダイアログのコンボボックスから「色変更」を選択すると、色変更ダイアログが表示されます。

また実行式ダイアログの「詳細」ボタンからも色変更ダイアログを表示することができます。

図：色変更ダイアログ



色変更ダイアログでは「フォント色」「線色」「塗りつぶし」を選択することができます。

※実行式の対象オブジェクトは「3-3-3. 対象オブジェクト」をご覧ください。

4-8-1. フォント色を設定

「フォント色」にチェックを入れ、色の「選択」ボタンをクリックします。

色の選択ダイアログでカラーリストもしくはカラーテーブルより色を指定し、「OK」をクリックします。

4-8-2. 線色を設定

「線色」にチェックを入れ、色の「選択」ボタンをクリックします。

色の選択ダイアログでカラーリストもしくはカラーテーブルより色を指定し、「OK」をクリックします。

4-8-3. 塗りつぶし（背景色）を設定

[塗りつぶし]にチェックを入れ、色の[選択]ボタンをクリックします。

色の選択ダイアログでカラーリストもしくはカラーテーブルより色を指定し、[OK]をクリックします。

4-8-4. フォント色と塗りつぶし（背景色）を設定

テキスト変数・表のセル（テキスト）にはフォント色と塗りつぶし（背景色）を設定することができます。

[フォント色]と[塗りつぶし]にチェックを入れ、色の[選択]ボタンをクリックします。

色の選択ダイアログでカラーリストもしくはカラーテーブルより色を指定し、[OK]をクリックします。

<< 注意 >>

帳票上で反映されるのは[2. 条件の構成]-[2-3. 実行式]-[2-3-3. 対象オブジェクト]に表記されている該当オブジェクトのみとなります。

4-9. 位置・サイズ変更

位置変更やサイズ変更は位置・サイズ変更ダイアログから行います。起動方法は以下の通りです。実行式ダイアログのコンボボックスから[位置・サイズ変更]を選択すると、[位置・サイズ変更]ダイアログが表示されます。また実行式ダイアログの[詳細]ボタンからも位置・サイズ変更ダイアログを表示することができます。

位置で指定する単位はフォーム設定の配置単位に依存します。

例) 配置単位にセンチを指定している場合、位置に数値5を入力すると5センチ移動します。

※実行式の対象オブジェクトは「3-3-3. 対象オブジェクト」をご覧ください。

図：位置・サイズ変更ダイアログ

位置・サイズ 変更

☒ 位置

☒ 現在位置からの相対位置

☐ 絶対位置

開始点 X: 0.000

Y: 0.000

☒ サイズ

☒ 現在サイズからの相対サイズ

☐ 絶対サイズ

幅: 0.000

高さ: 0.000

☒ 縦横比固定

※ サイズのマイナス値は直線のみ有効です。

OK キャンセル

4-9-1. 位置を変更

位置にチェックを入れ、[現在位置からの相対位置] または [絶対位置] を選択します。
開始点 X と Y には移動量を入力します。

現在位置からの相対位置

[現在位置からの相対位置] にチェックを入れ、開始点 X と Y に設定値を入力します。
現在位置からの相対位置は現在のオブジェクトの位置から開始点 X と Y の設定値分移動します。

絶対位置

[絶対位置] にチェックを入れ、開始点 X と Y に設定値を入力します。
絶対位置は現在のオブジェクトの位置に関係なく開始点の X と Y の設定値通りに移動します。

4-9-2. サイズを変更

サイズにチェックを入れ、[現在サイズからの相対サイズ] または [絶対サイズ] を選択します。
高さとは幅には変更サイズの設定値を入力します。
縦横比固定にチェックを入れると、高さと幅が連動して動くようになります。

現在サイズからの相対サイズ

[現在サイズからの相対サイズ] にチェックを入れ、高さとは幅に設定値を入力します。
相対サイズは現在のオブジェクトのサイズから高さとは幅の設定値分サイズ変更します。

絶対サイズ

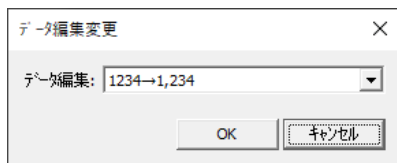
[絶対サイズ] にチェックを入れ、高さとは幅に設定値を入力します。
絶対サイズは現在のオブジェクトのサイズに関係なく高さとは幅の設定値通りにサイズ変更します。

- ※ ページ変数、日付変数、マーク変数、バーコード変数は、サイズ変更できません。
- ※ 直線以外のオブジェクトはマイナス値のサイズ指定はできません。サイズ変更の値を 0 以下とした場合 0.0001 になります。
- ※ 四角形・楕円などはサイズ 0 としても、帳票上には「・」が表示されます。
- ※ グラフ変数はサイズを小さくしすぎた場合には、ランタイムエラーとなります。
- ※ 四角形、罫線オブジェクトの丸コーナーは、サイズ変更時に変更されません。

4-10. データ編集

データ編集はデータ編集変更ダイアログから行います。起動方法は以下の通りです。
実行式ダイアログのコンボボックスから [データ編集] を選択すると、データ編集変更ダイアログが表示されます。
また実行式ダイアログの [詳細] ボタンからもデータ編集変更ダイアログを表示することができます。

図：データ編集変更ダイアログ



データ編集のコンボボックスをクリックすると、選択可能な編集コマンドがコンボボックスで表示されます。

ここから適用したい編集コマンドを選択します。

※実行式の対象オブジェクトは「3-3-3. 対象オブジェクト」をご覧ください。

4-11. 条件設定の一括変更

条件設定されている変数名やオブジェクト名を別の変数名やオブジェクト名に一括で置換することができます。

置換はケース内のすべての条件式実行式に対して行われます。

※帳票上に配置されているオブジェクトが1つの場合、変数名・オブジェクト名置換ダイアログは開けません。

<< 注意 >>

条件式で他変数を選択している場合、テキスト変数またはセル以外のオブジェクトを置換後の変数名に選択しても置換されません。

変更前と変更後の変数名またはオブジェクト名が同一だった場合も置換は行われません。

変数名やオブジェクト名の置換方法

条件設定ダイアログから右リストのケース上で右クリックし、コンテキストメニューから「変数名の置換」を選択します。

変数名・オブジェクト名置換ダイアログが開かれ「変更前の変数名」のコンボボックスから変更対象の変数名またはオブジェクト名を選択します。

「変更後の変数名」のコンボボックスから変更後の変数名またはオブジェクト名を選択します。

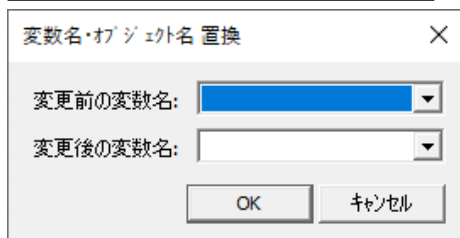
[OK] ボタンをクリックすると置換するかメッセージが表示されます。

「はい」をクリックすると、変数名またはオブジェクト名が置換され置換結果が表示されます。

「いいえ」をクリックした場合は、置換されることはありません。

※一度置換を完了すると元に戻すことはできません。

図：変数名・オブジェクト名置換ダイアログ



5. 重ね合わせ

固定オブジェクト

実行式が設定された固定オブジェクトは重ね合わせで背面に設定をしても他の全てのオブジェクトより常に前面に描画されます。

変数オブジェクト

実行式設定の有無によって重ね合わせの順序が変わることはありません。

テキスト変数とセルの塗りつぶし（背景色）

他の全てのオブジェクトより背面に描画されます。

<< 注意 >>

Screen では、実行式が設定された固定オブジェクトは入力フォームとリンク変数の背面に描画されます。

前面

入力フォーム

リンク変数

実行式設定された固定オブジェクト

その他のオブジェクト

背面

6. 複数行マッピングとリスト形式出力

複数行マッピングおよび、リスト形式出力の条件設定は、条件式の判定は1行ごとのデータを対象に行われ、実行式は各行ごとに適用されます。

複数行マッピング

条件設定されているテキスト変数が複数行マッピングの場合、該当行の値のみを判定します。マッピングされた全データをまとめて条件判定することはできません。

条件の対象が複数行マッピングになっており実行式の対象が複数行マッピングではない場合、最初の1行目のデータのみで判定します。

例) TEXT000 == aaa なら直線を赤色にする
TEXT000 が以下の場合は真判定になり
aaa
bbb
TEXT000 が以下の場合は偽判定となります。
bbb
aaa

<< 注意 >>

マッピングされたデータに改行が含まれている場合は、複数行データとして扱われます。

リスト形式ではない複数行マッピングでは流し込みと自動改行には実行式が適用されません。実行式属性の位置変更は適用されません。

複数行マッピングと実行式の適用範囲は以下の通りです。

条件の対象が複数行	値が他変数（複数行）	→	行ごとに適用
条件の対象が複数行	値が他変数（単一行）	→	行ごとに適用
条件の対象が単一行	値が他変数（複数行）	→	行ごとに適用
条件の対象が単一行	値が他変数（単一行）	→	全行に適用
※対象オブジェクトが複数行であっても全体に適用されます。			
条件の対象が複数行	値が固定値	→	行ごとに適用
条件の対象が単一行	値が固定値	→	全行に適用

※イメージ変数、バーコード変数、マーク変数の複数行マッピングの実行式：表示につきましては、行ごとに適用されます。

実行式：位置・サイズ変更につきましては適用外となります。

リスト形式出力

条件設定されているテキスト変数がリスト形式出力が設定されている場合も該当行の値のみを判定します。

表示 / 非表示、太字化、フォント色、相対位置、データ編集変更に対応しています。

7. 制限事項

- ・ 旧来方法の出力位置設定がされているときは条件設定はできません。
- ・ 文字列変更やデータ編集が設定された変数は条件の対象には使用できません。
- ・ サブフォーム内で設定されている条件設定機能は動作しません。
- ・ 表のセルの条件式または実行式は同一表内同士の設定のみ可能となります。
- ・ 表のセルを条件式に設定する場合、同じ条件式内で設定できるセル、および、実行式の対象オブジェクトに設定できるセルは同一ブロックのセルのみです。
- ・ いずれの条件式にも該当しないときは、オブジェクトの通常の設定値（条件設定機能を使わないときの設定値）が適用されます。
- ・ Form エディタ上で、ケースや条件式、実行式を一度削除すると元に戻すことはできません。

条件の判定基準

- ・ 条件の対象に今日の日付（YYYYMMDD）を設定しているとき、YYYYMMDD のフォーマットと一致していない場合は、偽の判定となります。
- ・ 条件の対象に今日の日付（年）（YYYY）、今日の日付（月）（MM）、今日の日付（日）（DD）を設定している場合は、フォーマットが一致していない場合も数値として判定が行われます。
- ・ 今日の日付（日）DD に 40 や、今日の日付（月）MM に 13 などの存在しない日付が与えられた場合は、エラーにはならず判定が行われます。マイナス値だった場合は、すべて偽判定となります。
 - 今日の日付（年）（YYYY）
 - 今日の日付（月）（MM）
 - 今日の日付（日）（DD）上記の場合は、数値が大きい方が大きいと判定されます。
- ・ 今日の日付（YYYYMMDD）の場合は年が大きい方が比較されます。
 - ① 20210130 2021 年 01 月 30 日
 - ② 20201540 2020 年 15 月 40 日上記の場合は①が大きいと判定されます。

条件式と関係演算子

条件の対象	関係演算子		
	文字列系	数値系	日付系
自変数	使用可	使用可	常に偽
他変数	使用可	使用可	常に偽
日付系	常に偽	常に偽	使用可
ページ系	使用可	使用可	常に偽

実行式

- ・以下のオブジェクトは条件設定に使用することができません。
 - ・動的オブジェクト化されたオブジェクト
 - ・「透かし」設定されたオブジェクト
 - ・「印刷時のみ出力」設定されたオブジェクト
 - ・表連携設定された固定オブジェクト
 - ・上下または左右どちらかでも余白の設定がされている固定テキスト
- ・位置変更の対象オブジェクトにバーコード変数、2D コード変数を選択した場合、設定できるのは開始点指定のみです。終了点指定は反映されません。
- ・位置変更 [開始点 XY]、[高さ]、[幅] の設定可能な数値の範囲は、-9999.999 ～ 9999.999 までの値となります。なお、負数を表す「-」や小数点を表す「.」は、桁数に含まれません。
- ・Print ランタイムでは、バーコード変数の位置設定は反映されません。
- ・Screen ランタイムでは、領域サイズを 0 以下にしても文字は非表示となりません。
- ・テキスト変数のプロパティから非表示に設定されている場合、塗りつぶし（背景色）は出力されません。
- ・塗りつぶし（背景色）はテキスト変数の余白設定は反映されません。また、塗りつぶし（背景色）範囲は定義領域となります。
- ・文字列変更で文字を変更するときに、固定テキストオブジェクトに指定されたフォントに、文字列で指定された文字が存在する必要があります。

8. 条件使用例

帳票例 1

文字列を空にしたい

設定方法

実行式で空にしたい文字列を対象オブジェクトに設定し、属性を「非表示」に設定します。

実行式

実行式属性：非表示

対象オブジェクト：空にしたい文字列のオブジェクト

帳票例 2

複数ページの帳票で、最後のページ以外に「次ページへ続く」と出力したい

設定方法

固定テキストで「次ページへ続く」というオブジェクトを配置します。

条件式の条件の対象には「最後のページなら」を設定します。

実行式属性では「次ページへ続く」の固定テキストを非表示に設定します。

条件式

条件の対象：最後のページなら

実行式

実行式属性：非表示

対象オブジェクト：「次ページへ続く」の固定テキスト

帳票例 3

得点が 10 点以上 20 点以下のとき、フォント色を赤色に変更したい

設定方法

論理演算子を使用して、条件を複数作成します。

1 つ目の条件には 10 点以上を設定し、論理演算子「かつ」を使用して 2 つ目の条件を作成し、20 点以下を設定します。

条件式

論理演算子：もし

条件の対象：自変数

関係演算子：数値：以上

値：10

論理演算子：かつ

条件の対象：自変数

関係演算子：数値：以下

値：20

実行式

実行式属性：色変更 フォント“赤”

対象オブジェクト：得点オブジェクト

帳票例 4

該当する年号を○で囲みたい

設定方法

「昭和」「平成」「令和」をそれぞれ固定テキストで配置し、「昭和」の上に○オブジェクトを配置します。

「昭和」なら 1「平成」なら 2「令和」なら 3 のデータが入る年号データの変数を作成します。「平成」に○をする場合は、年号データ変数が 2 と等しいとき、○オブジェクトを位置変更の絶対位置で「平成」の開始点 XY と同じ値を設定します。

「令和」に○をする場合は、年号データ変数が 3 と等しいとき、○オブジェクトを位置変更の絶対位置で「令和」の開始点 XY と同じ値を設定します。

条件式 1

条件の対象：年号データ変数

関係演算子：数値：等しい

値：固定値 "2"

実行式 1

実行式属性：絶対位置 開始点 XY（「平成」オブジェクトの開始点 XY と同じ値）

対象オブジェクト：○オブジェクト

条件式 2

条件の対象：年号データ変数

関係演算子：数値：等しい

値：固定値 "3"

実行式 2

実行式属性：絶対位置 開始点 XY（「令和」オブジェクトの開始点 XY と同じ値）

対象オブジェクト：○オブジェクト

帳票例 5

条件によって列数を増やしたい

設定方法

あらかじめ増加する最大数の列を直線または四角形、罫線で作成します。

列数を増やしたくない場合の条件が真のとき、不要な列を実行式属性で非表示にします。

実行式

実行式属性：非表示

対象オブジェクト：増やしたい列の直線または四角形、罫線オブジェクト

帳票例 6

データが 0 なら非表示、それ以外は、カンマ編集にしたい

設定方法

条件式と実行式の条件セットを 2 つ作成します。

1 つ目の条件セットでは、データが 0 と等しいとき実行式属性を非表示にする設定をします。

2 つ目の条件セットでは、データが 0 と等しくないときデータ編集でカンマ編集にする設定をします。

条件式 1

条件の対象：自変数

関係演算子：数値：等しい

値：固定値 "0"

実行式 1

実行式属性：非表示

対象オブジェクト：データの変数

条件式 2

条件の対象：自変数

関係演算子：数値：等しくない

値：固定値 "0"

実行式 2

実行式属性：データ編集 "1234 → 1,234"

対象オブジェクト：データの変数

帳票例 7

数値を判定して文字列を変更したい

設定方法

判定に使用する数値のテキスト変数と変更したい文字列を固定テキストで作成します。

条件式と実行式の条件セットを 2 つ作成します。

数値が 1 なら実行式属性の文字列変更で文字列 1 を入力します。

数値が 2 なら実行式属性の文字列変更で文字列 2 を入力します。

条件式 1

条件の対象：他変数（判定したい数値の変数）

関係演算子：数値：等しい

値：固定値 "1"

実行式 1

実行式属性：文字列変更 "文字列 1"

対象オブジェクト：変更したい文字列の固定テキスト

条件式 2

条件の対象：他変数（判定したい数値の変数）

関係演算子：数値：等しい

値：固定値 "2"

実行式 2

実行式属性：文字列変更 "文字列 2"

対象オブジェクト：変更したい文字列の固定テキスト

Create!Form 12

条件設定 第 4 版

発行日

2024 年 8 月

発行者

インフォテック株式会社